

# 薬剤部

## 1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	40人
その他(技術補佐員等)	10人
合 計	51人

## 1-2 教員の異動状況

川上 純一(教授)(H18.4.1~現職)
-----------------------

## 2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名
	生体試料中薬物濃度の高感度迅速測定法の開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 本研究は、血液や尿などの生体試料中薬物濃度に関し、従来より課題となっていた感度、簡便性および迅速性の問題点について、トリプル四重極質量分析法、プレカラムラベル法、高速液体クロマトグラフ法、超高速液体クロマトグラフ法を用いることで克服し、臨床適用可能な分析法を確立するものである。これらの手法を用いることにより、従来、臨床への導入が困難であった生体試料中薬物濃度の定量分析が可能になる。
2	(1)研究・開発等のテーマ名
	医薬品の体内動態の解析と有害作用・相互作用の予測
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 本研究は、医薬品の体内動態、有害作用の発現および相互作用に関し、従来より課題となっていた個人差について、薬物代謝酵素、薬物輸送担体および薬物受容体の遺伝子変異やそれらの活性バイオマーカーを用いて解析するものである。この手法は、病態のみならず遺伝的要因を含めて統合的に解析する点で新規性があり、これらにより医薬品の体内動態、有害作用の発現および相互作用の個人差要因が明らかとなる。
3	(1)研究・開発等のテーマ名
	感染症治療・がん化学療法・緩和ケア等に関する臨床薬物動態・臨床薬理の研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 本研究は、感染症治療、がん化学療法、緩和ケア等に関し、厳密な薬物治療管理が必要な医薬品について、薬物血中濃度モニタリングや薬物動態解析を用い、最適な薬物投与設計を提案するものである。これらの手法は、患者の病態の把握とともに、臨床データの少ない新規医薬品を対象にする点で新規性があり、これにより、厳密な薬物治療管理が必要な医薬品について、薬物投与設計が確立できる。
4	(1)研究・開発等のテーマ名
	医薬品の安全対策や合理的使用のための医療情報・薬剤疫学の研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 本研究は、医薬品の臨床での使用に関し、従来より課題となっていた安全対策や合理的使用について、本学附属病院における使用実績を用い、分析・解明したものである。この手法は、国内外において規制当局・製薬企業が多く実施しているものの実臨床に関わる医療従事者が実施しているという点で画期的であり、これによりより安全で有効性が高い医薬品使用法が明らかとなる。

## 3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	7編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	11.113
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	3編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	9編 ( 9編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	4編 ( 4編 )
(5)症例報告数(うち和文のもの)	0編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000

### (1) 原著論文

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Ishida T, Naito T, Sato H, Kawakami J: Relationship between the plasma fentanyl and serum $4\beta$ -hydroxycholesterol based on CYP3A5 genotype and gender in patients with cancer pain. Drug Metab Pharmacokinet 31: 242-248, 2016	1.764
2.	Yamamoto C, Ishida T, Osawa T, Naito T, Kawakami J: Trends in non-prescription drug recalls in Japan. YAKUGAKU ZASSHI 136: 1307-1312, 2016.	0.161
3.	Yoshikawa N, Naito T, Yagi T, Kawakami J: A validated fluorometric method for the rapid determination of pregabalin in human plasma applied to patients with pain. Ther Drug Monit 38: 628-633, 2016	2.094
4.	Tanaka H, Naito T, Mino Y, Kawakami J: Validated determination method of tramadol and its desmethylates in human plasma using an isocratic LC-MS/MS and its clinical application to patients with cancer pain or non-cancer pain. J Pharm Health Care Sci 2: 25, 2016	0.000
5.	Sato H, Naito T, Ishida T, Kawakami J: Relationships between oxycodone pharmacokinetics, central symptoms, and serum interleukin-6 in cachectic cancer patients. Eur J Clin Pharmacol 72: 1463-1470, 2016	2.710
6.	Hoshikawa K, Ono S: Discrepancies between multicriteria decision analysis-based ranking and intuitive ranking for pharmaceutical benefit-risk profiles in a hypothetical setting. J Clin Pharm Ther 42: 80-86, 2017	1.833

論文数(A)小計 6 うち和文 0 IF小計 8.562

#### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

#### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Sue M, Higashi N, Shida H, Kogane Y, Nishimura Y, Adachi H, Kolaczowska E, Kepka M, Nakajima M, Irimura T: An iminosugar-based heparanase inhibitor heparastatin (SF4) suppresses infiltration of neutrophils and monocytes into inflamed dorsal air pouches. Int Immunopharmacol 35: 15-21, 2016	2.551

論文数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 2.551

### (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	佐藤聖, 内藤隆文, 鈴木祐介, 川上純一: がん悪液質患者におけるオキシコドンの血中動態と血中 $4\beta$ -水酸化コレステロール濃度との関係. 臨床薬理 47: S204, 2016	0.000
2.	山田尚広, 見野靖晃, 内藤隆文, 川上純一: 日本人におけるポリコナゾールとそのNオキシド代謝物の血中動態に及ぼすFMO3の遺伝子変異の影響. 臨床薬理 47: S215, 2016	0.000
3.	山下彩花, 堀雄史, 川上純一, 木村通男, 平松達雄, 大江和彦, 國方淳, 横井英人, 近藤勝弘, 木村和哲, 頭金正博: 医療情報データベースを用いた無顆粒球症検出アルゴリズムの汎用性に関する検討. 臨床薬理 47: S249, 2016	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 3 IF小計 0.000

#### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 0 IF小計 0.000

#### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 0 IF小計 0.000

### (2-2) レター

レター数小計 0 IF小計 0.000

### (3) 総説

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	川上純一: 2016年度(平成28年度)診療報酬改定のポイント. Topics. 月刊薬事 58: 1765-1769, 2016	0.000
2.	堀雄史: 特集 副作用情報を収集・活用する! ビッグデータ時代の副作用情報の収集と活用. 月刊薬事58: 2859-2862, 2016	0.000
3.	堀雄史: 特集 ファーマコビジランスと病院薬剤師②医療情報を活用した副作用情報の収集と活用. 日本病院薬剤師会雑誌 52: 1344-1345, 2016	0.000
4.	堀雄史: 病院情報データベースを用いた有害事象発現頻度の比較. 医薬ジャーナル52: 1857-1859, 2016	0.000
5.	内藤隆文: ミコフェノール酸(免疫抑制薬). 特集. これなら私でもできる! TDMを活かすTips教えます. 月刊薬事 59: 67-71, 2017	0.000

6.	見野靖晃: 治療域が狭い・副作用が出やすい薬剤におけるDDIマネジメントの実践例! トリアゾール系抗真菌薬. 薬局 8: 119-121, 2016	0.000
7.	川上純一: 平成28年度診療報酬・調剤報酬改定のポイント. Innovative Pharmacist 1: 9-10, 2016	0.000
8.	川上純一: 書評: 症候別アプローチ(信岡祐彦監, 日本女性薬剤師会発行). 日本薬剤師会雑誌 68: 997, 2016	0.000
9.	川上純一: 巻頭言. 静岡県病院薬剤師会会報 67: 3-4, 2017	0.000

総説数(A)小計 9 うち和文 9 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

#### (4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	川上純一: 日本薬剤師会編, 第十三改訂調剤指針増補版, 薬事日報, 東京, 2016	/
2.	丸山修治, 川上純一: 6章経口糖尿病治療薬(SGLT2阻害薬), 黒山政一, 大谷道輝編, 続々違いがわかる! 同種・同効薬, 南江堂, 東京, 2016, p.69-77	/
3.	川上純一, 内藤隆文(分担執筆): 臨床検査データブック 2017-2018. 高久史磨監修, 黒川清, 春日雅人, 北村聖編集, 医学書院, 2017, 東京	/
4.	堀雄史, 川上純一: 第1章 薬物治療の基礎. 臨床薬理学: 系統看護学シリーズ, 井上智子, 窪田哲朗編, 医学書院, 東京, 2016, p.5-36	/

著書数(A)小計 4 うち和文 4

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計 0 うち和文 0

#### 4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

#### 4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	11 件	928 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	1 件	794 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	2 件	230 万円
(7) 受託研究または共同研究	0 件	0 万円
(8) 奨学寄附金	0 件	0 万円

**(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)**

1.	川上純一(代表), 内藤隆文(分担): 平成28年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「がん患者における病期に基づくオピオイドの鎮痛効果および有害作用の変動予測法の構築」, 130万円(27-29年度, 370万円)(継続)	130万円
2.	内藤隆文(代表), 川上純一(分担): 平成28年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「がん悪液質の病態時におけるオピオイドによる鎮痛効果、有害作用の個人差要因の解明」, 120万円(平成26-28年度, 390万円)(継続)	120万円
3.	堀雄史(分担), 今任拓也(分担), 佐井君江(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「医療ビッグデータを用いた免疫機序による重篤副作用の発症リスク要因の同定及び評価」, 20万円(平成28-30年度, 380万円)(新規)	20万円
4.	川上純一(分担), 堀雄史(分担), 今任拓也(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「新機序糖尿病治療薬の副作用に関する薬剤疫学研究とその応用」, 20万円(平成27-29年度, 390万円)(継続)	20万円
5.	八木達也(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 若手研究(B)「術後患者におけるデクスメトミジンの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明」, 170万円(平成28-30年度)(新規)	170万円
6.	堀雄史(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 若手研究(B)「医療情報データベースを用いたARBの医薬品相互作用の探索法開発およびその機序解明」, 150万円(平成27-29年度, 310万円)(継続)	150万円
7.	見野靖晃(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 若手研究(B)「尿酸生成酵素阻害薬の至適投与設計法の確立」, 90万円(平成27-29年度, 310万円)(継続)	90万円
8.	丸山修治(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 奨励研究「易感染症患者におけるDPP-4阻害薬服用による感染症罹患リスク評価」, 57万円(新規)	57万円
9.	大澤隆志(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 奨励研究「抗てんかん薬ラモトリギンの代謝に及ぼすグルクロン酸抱合阻害剤の影響の解明」, 57万円(新規)	57万円
10.	山田尚広(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 奨励研究「ポリコナゾールの主代謝物Nオキシド体の曝露による皮膚障害リスク上昇の要因解析」, 57万円(新規)	57万円
11.	田中紀章(代表): 平成28年度科学研究費補助金, 奨励研究「高齢パーキンソン病患者におけるロチゴチン経皮吸収剤の薬物動態の個人差要因の解明」, 57万円(新規)	57万円

**(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成**

1.	川上純一(代表), 堀雄史(分担): 平成28年度日本医療研究開発機構研究開発委託事業, 医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースの利活用方法に関する薬剤疫学研究」, 794万円(新規)	794万円
----	---	-------

**(6) 財団助成金**

1.	山田尚広(代表), 内藤隆文(分担): 公益財団法人 薬学研究奨励財団, 第37回(平成28年度)研究助成金(グループB)「ポリコナゾールの主代謝物Nオキシド体の曝露による皮膚障害リスク上昇に着目した至適投与法の確立」, 80万円(新規)	80万円
2.	八木達也(代表), 内藤隆文(分担), 中島芳樹(分担), 川上純一(分担): 中富健康科学振興財団, 平成28年度(第29回)研究助成金「術後疼痛患者におけるデクスメトミジンの体内動態・有害作用・臨床効果の個人差要因の解明」, 150万円(新規)	150万円

**6 大型プロジェクトの代表, 総括**

**7 学会活動**

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	3 件
2) シンポジウム発表数	0 件	3 件
3) 学会座長回数	0 件	11 件
4) 学会開催回数	0 件	1 件
5) 学会役員等回数	2 件	58 件
6) 一般演題発表数	8 件	

**(1) 国際学会等開催・参加**

**5) 役職についている国際学会名とその役割**

1.	川上純一: 国際薬剤疫学会 学会誌(Pharmacoepidemiology and Drug Safety) 編集委員(Associate editor)
2.	堀雄史: 国際薬剤疫学会 学会誌(Pharmacoepidemiology and Drug Safety) 編集委員(Associate editor)

**6) 一般発表**

**6-2) ポスター発表**

1.	<u>Naito T</u> , <u>Mino Y</u> , <u>Oshiro J</u> , Ogawa N, <u>Kawakami J</u> : ABCB1 2677TT-3435TT genotype and its associated tacrolimus pharmacokinetics affect renal function in patients with rheumatoid arthritis. 11th International ISSX meeting (ISSX2016). June 2016 (Busan, Korea)
2.	<u>Osawa T</u> , <u>Naito T</u> , <u>Mino Y</u> , <u>Kawakami J</u> : Blood distribution of subcutaneous bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients. 11th International ISSX meeting (ISSX2016). June 2016 (Busan, Korea)
3.	<u>Hori K</u> , Kimura M, Ohe K, Nakajima N, Yokoi H, Tohkin M, Sai K, Imatoh T, Sato T, Ikeda S, Saito Y, <u>Kawakami J</u> : Review of the pharmacoepidemiological studies using the medical information databases in Japanese hospitals. 32nd International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Aug 2016 (Dublin, Ireland)
4.	Imatoh T, Sai K, <u>Hori K</u> , Segawa K, Kimura M, <u>Kawakami J</u> , Saito Y: The combination of selective serotonin reuptake inhibitors and statins increases the risk of hyperglycemia in Japanese patients: a case cross-over study. 32nd International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Aug 2016 (Dublin, Ireland)
5.	<u>Shida H</u> , <u>Naito T</u> , <u>Shibata K</u> , <u>Kawakami J</u> : Development of a novel LC-MS/MS method for determination of denosumab in human serum and its clinical application to cancer patients. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2016 Midyear). Dec 2016 (Las Vegas, NV, USA)
6.	<u>Taguchi R</u> , <u>Naito T</u> , <u>Sato H</u> , <u>Kawakami J</u> : Validated LC-MS/MS method for the simultaneous determination of amlodipine and its major metabolites in human plasma and its clinical application to patients with hypertension. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2016 Midyear). Dec 2016 (Las Vegas, NV, USA)
7.	<u>Yamada T</u> , <u>Mino Y</u> , <u>Naito T</u> , <u>Kawakami J</u> : Impact of flavin-containing monooxygenase 3 genetic variants on plasma disposition of voriconazole in Japanese patients. 118th Annual Meeting of the American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics (ASCPT 2017 Annual Meeting) Mar 2017 (Washington DC, USA)
8.	<u>Shibata K</u> , <u>Naito T</u> , <u>Shida H</u> , <u>Kawakami J</u> : Validated LC-MS/MS method for the absolute determination of cetuximab in human serum and its clinical application. 118th Annual Meeting of the American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics (ASCPT 2017 Annual Meeting) Mar 2017 (Washington DC, USA)

## (2)国内学会の開催・参加

### 1)学会における特別講演・招待講演

1.	内藤隆文: ヒトの薬物動態に関する情報の読み方とその活用. 臨床データの活用. 第1回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会, 浜松, 2016年5月
2.	山田尚広: Postdoctoral Award受賞講演. Saturated metabolism of voriconazole N-oxidation resulting in nonlinearity of pharmacokinetics of voriconazole at clinical doses. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
3.	内藤隆文: 研究の着想から、学会発表、論文発表まで、あなたの研究発表、倫理審査を受けていますか？ 研究倫理と薬剤師, 第49回日本薬剤師会学術大会, 名古屋, 2016年10月

### 2)シンポジウム発表

1.	内藤隆文: 血中動態の個人差要因とTDMを行う上での留意点. 抗真菌薬の適正使用に薬剤師は如何に関わるべきか. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
2.	八木達也, 内藤隆文, 田中紀章, 川上純一: 薬剤師による疼痛緩和領域における薬物治療管理の質の向上を目的とするリサーチストラテジー. 薬剤師のクリニカルレスポンスをどうリサーチレスポンスに繋げるか. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
3.	堀雄史: 大学病院における医薬品安全管理業務の実践. 医薬品使用に係る安全体制・安全対策: 病院ガバナンス改革と意思決定のあるべき姿とは? 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月

### 3)座長をした学会名

1.	川上純一: 第10回日本緩和医療薬学会年会, 浜松, 2016年6月
2.	川上純一: 第32回日本病院薬剤師会東海ブロック東海医療薬学シンポジウム, 名古屋, 2016年7月
3.	内藤隆文: 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
4.	内藤隆文: シンポジウム. 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
5.	堀雄史, 川上純一: 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
6.	八木達也: 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
7.	川上純一: 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
8.	川上純一: 第26回日本医療薬学会年会, 京都, 2016年9月
9.	川上純一: 第49回日本薬剤師会学術大会, 名古屋, 2016年10月
10.	川上純一: 第24回日本消化器関連学会週間(JDDW2016), 神戸, 2016年11月
11.	見野靖晃: 第10回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 群馬, 2016年11月

### 4)主催した学会名

1.	浜松医科大学医学部附属病院薬剤部, 主催, 浜松医科大学病院薬剤師オープンシンポジウム, 浜松, 2016年11月, 100名
----	---

### 5)役職についている国内学会名とその役割

1.	川上純一: 日本病院薬剤師会 副会長
2.	川上純一: 日本病院薬剤師会 医療政策部 部長
3.	川上純一: 日本病院薬剤師会 将来計画委員会 委員

4.	川上純一: 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2017 組織委員会 委員
5.	川上純一: 静岡県病院薬剤師会 会長
6.	青野浩直: 静岡県病院薬剤師会 理事
7.	内藤隆文: 静岡県病院薬剤師会 評議員
8.	川上純一: 日本薬剤師会 常務理事
9.	川上純一: 日本薬剤師会 病院診療所薬剤師部会 部会長
10.	川上純一: 日本薬剤師会 薬価基準検討委員会 主担当理事
11.	川上純一: 日本薬剤師会 健康サポート薬局に係る研修委員会 委員
12.	川上純一: 日本薬剤師会 第49回学術大会ポスター優秀賞審査委員会 委員
13.	川上純一: 日本医療薬学会 理事
14.	内藤隆文, 堀雄史: 日本医療薬学会 代議員
15.	川上純一: 日本医療薬学会 会員委員会 委員長
16.	川上純一: 日本医療薬学会 学会誌 (Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, Japanese Society of Pharmaceutical Health Care and Sciences) 編集委員 (Editorial advisory board)
17.	川上純一, 内藤隆文: 日本臨床薬理学会 社員
18.	川上純一: 日本臨床薬理学会 広報委員会 委員
19.	川上純一: 日本臨床薬理学会 東海・北陸支部 支部世話人
20.	見野靖晃: 日本薬学会 医療薬科学部会 次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム若手世話人
21.	川上純一: 日本薬学会 男女共同参画委員会 委員
22.	川上純一: 日本薬学会 東海支部 幹事
23.	川上純一, 内藤隆文: 日本薬学会 代議員
24.	川上純一: 日本薬物動態学会 評議員
25.	川上純一: 日本薬物動態学会 学会活動活性化委員会 委員
26.	川上純一: 日本薬剤学会 評議員
27.	川上純一: 日本薬剤学会 第33年会(2018年度)組織委員会 委員
28.	川上純一: 日本薬剤疫学会 評議員
29.	川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 理事
30.	川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 国際委員会 副委員長
31.	内藤隆文, 見野靖晃: 日本TDM学会 TDMガイドライン策定委員会 委員
32.	内藤隆文: 日本緩和医療薬学会 社員
33.	川上純一: 日本緩和医療薬学会第10回年会 組織委員会 委員
34.	八木達也: 国公立大学病院感染対策協議会 ガイドライン作業部会 抗菌薬適正使用ガイドライン作成担当委員
35.	川上純一: 静岡県立大学 客員教授
36.	川上純一: 静岡県立大学 教員特別研究推進費学外審査委員
37.	川上純一: 静岡県立大学 研究倫理審査委員会 委員
38.	川上純一: 厚生労働省 特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会 構成員
39.	川上純一: 厚生労働省・中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員(診療報酬調査専門組織 医療機関コスト調査分科会 委員)
40.	川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員(薬価算定組織 委員)
41.	川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員(診療報酬調査専門組織 DPC評価分科会 委員)
42.	川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員(費用対効果評価専門組織 委員)
43.	川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会 平成28年度診療報酬改定結果検証に係る調査検討委員会(委託事業) 委員
44.	川上純一: 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 医薬品第一部会 委員
45.	川上純一: 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 医薬品第二部会 委員
46.	川上純一: 厚生労働省 がん診療提供体制のあり方に関する検討会 構成員
47.	川上純一: 厚生労働省 社会保障審議会 医療分科会 委員
48.	川上純一: 厚生労働省 社会保障審議会 療養病床の在り方等に関する特別部会 委員
49.	川上純一: 厚生労働省 ロードマップ検証検討事業(後発医薬品関連, 医政局経済課委託事業) 委員
50.	川上純一: 静岡県 薬事審議会 委員
51.	川上純一: 静岡県薬事振興会 理事
52.	川上純一: 静岡県薬剤師研修協議会 委員
53.	川上純一: 東海地区薬学部学生病院・薬局実務実習調整機構 委員
54.	川上純一: 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員

55.	川上純一: 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) 専門委員
56.	川上純一: 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 研究成果展開事業マッチングプランナープログラム探索試験 専門委員
57.	川上純一: 日本医療機能評価機構 評議員
58.	堀雄史: 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 市販後データサイエンスアドバイザーグループ委員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	2件	0件

### (1)外国の学術雑誌の編集

1.	川上純一: Pharmacoepidemiology and Drug Safety, Associate editor, 登録あり, IF 2.908
2.	堀雄史: Pharmacoepidemiology and Drug Safety, Associate editor, 登録あり, IF 2.908

### (3)国内外の英文雑誌のレフリー

1.	川上純一: Pharmacoepidemiology and Drug Safety 1件
2.	内藤隆文: Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2件
3.	内藤隆文: 薬学雑誌 1件

## 9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	2件
(3)学内共同研究	11件

### (2)国内共同研究

1.	齋藤嘉朗, 佐井君江, 今任拓也 (国立医薬品食品衛生研究所), 頭金正博 (名古屋市立大学): 医療情報データベースを用いた副作用検出方法に関する検討
2.	伊藤善規 (岐阜大学): 薬剤師業務のアウトカムの評価に関する検討

### (3)学内共同研究

1.	小川法良 (免疫リウマチ内科), 鈴木基裕 (整形外科): 関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
2.	土井松幸 (集中治療部): 集中治療管理下における鎮静剤の臨床効果および有害作用の個人差要因の解明
3.	須田隆文 (呼吸器内科): 非小細胞肺癌患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
4.	須田隆文 (呼吸器内科): 特発性肺線維症患者における抗線維化薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
5.	伊東宏晃 (周産母子センター): 妊娠中の抗菌薬腔錠の血中への移行性の評価
6.	峯田周幸 (耳鼻咽喉科): 頭頸部がん患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
7.	小野孝明 (血液内科): 易感染性患者における抗真菌薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
8.	山末英典 (精神神経科): 統合失調症患者における精神神経用薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
9.	安田日出夫 (腎臓内科): 副腎皮質ステロイド薬の薬物間相互作用の定量的評価
10.	戸倉新樹 (皮膚科): 抗真菌薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
11.	木村道男 (医療情報部): 臨床研究情報システムを用いた副作用の検出方法に関する検討

## 10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0件

## 11 受賞

### (3)国内での受賞

1.	辻泰弘, 太田幸雄, 笠井英史, 平木洋一, 山田尚広, 松永典子, 大石博史, 矢口武廣, 北原隆志, 内藤隆文, 藤秀人: TDM研究優秀論文賞(平成28年度)「日本人MRSAおよびグラム陽性菌感染症を対象としたジェネリック・テイコブラニンの多施設共同母集団薬物動態解析」, 2016年5月(宇都宮)
2.	山田尚広: Postdoctoral Award「ポリコナゾールのNオキシド化の代謝飽和は、臨床用量におけるポリコナゾールの非線形薬物動態を引き起こす」, 第26回日本医療薬学会, 2016年9月(京都)
3.	佐藤聖, 内藤隆文, 石田卓矢, 川上純一: 優秀演題賞「がん悪液質の病態時における血清IL-6の濃度上昇とオキシドンの血中動態および中枢症状発現との関係」, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月(京都)
4.	志田拓顕, 内藤隆文, 柴田海斗, 川上純一: 優秀演題賞「定量的標的プロテオミクスによるデノスマブのヒト血清中濃度測定法の確立」, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月(京都)



## 12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

1.	川上純一: 地域包括ケア時代の病・薬連携に弾み: 日病薬・川上常務理事インタビュー. 薬事日報 No. 11704(2016年4月4日), p.5
2.	川上純一: 平成28年度診療報酬改定のポイント. ラジオNIKKEI「病薬アワー」, 2016年4月11日(放送)
3.	浜松医科大学医学部附属病院薬剤部: 薬剤師のひみつ(紹介記事). 薬事新報 No. 2937(2016年4月14日), p.20
4.	川上純一: 平成27年度静岡県病薬評議員会・臨時総会: 川上会長(浜松医大)を4選. 薬事新報 No. 2937(2016年4月14日), p.22-23
5.	川上純一: 病棟薬剤加算「次回は回復期などの評価へ」日病薬・川上常務理事インタビュー. 薬事ニュース No. 4254(2016年5月13日), p.1
6.	川上純一: 日病薬・川上常務理事: 連携管理加算で病院・薬局の連携を促進. 薬事ニュース No. 4254(2016年5月13日), p.4
7.	川上純一: A項目など評価者、薬剤師にシフトすべき?: 検証・新看護必要度(5). CB News Management, <a href="http://www.cabrain.net/management/article/newsId/48993.html">http://www.cabrain.net/management/article/newsId/48993.html</a> , 2016年6月16日
8.	川上純一: 地域包括ケアで活躍できる病院薬剤師: 日病薬木平新体制がスタート. 薬事日報 No. 11741(2016年7月4日), p.10
9.	川上純一: 注目される「フォーミュラリー」医療費増の抑制に役立つと期待. 薬事日報 No. 11786(2016年10月17日), p.2
10.	川上純一: 医療政策と病院薬剤師の役割. ラジオNIKKEI「井手口直子のメディカル・カフェ」, 2016年11月9日(放送)
11.	川上純一: 医療政策の観点からのチーム医療. ラジオNIKKEI「井手口直子のメディカル・カフェ」, 2016年11月23日(放送)
12.	川上純一: 済生会 薬剤部科長研修会: 日病薬・木平会長、川上副会長が講演. 薬事新報 No. 2968(2016年11月17日), p.21
13.	川上純一: 日本病院薬剤師会 地方連絡協議会: 30改定、実務実習など重要事項を説明. 薬事新報 No. 2968(2016年11月17日), p.22-23
14.	川上純一: 敷地内薬局 地域の病診薬連携に悪影響: 日病薬・川上副会長 かかりつけ機能の阻害も. 薬事日報 No. 11801(2016年11月21日), p.1
15.	浜松医科大学医学部附属病院薬剤部: 浜松医科大学 病院薬剤師オープンシンポジウム: 薬剤師職能の10年間の変遷-調剤・臨床から研究まで幅広く活動. 医薬ジャーナル 52: 2635-2642, 2016
16.	川上純一: 用事購入で在庫管理徹底の動き オブジーボ緊急薬価下げで: 毎年改定「薬価高止まり、在庫管理で人件費増も」浜松医大・川上氏. メディファクス No. 7453(2016年12月14日), p.1
17.	川上純一: 用事購入で在庫管理徹底の動き オブジーボ緊急薬価下げで: 毎年改定「薬価高止まり、在庫管理で人件費増も」浜松医大・川上薬剤部長. 日刊薬業 No. 1473(2016年12月15日), p.7-8
18.	浜松医科大学医学部附属病院薬剤部: 浜松医大、静岡県病薬西部支部が共催: 病院薬剤師オープンシンポジウム. 薬事新報 No. 2972(2016年12月15日), p.21
19.	川上純一: 日病薬・川上副会長 かかりつけ機能の阻害要因に: 止まらない敷地内薬局誘致 災害医療センター公募中止も. 薬事日報 No. 11815(2017年1月1日), p.7
20.	川上純一: 薬の服用の仕方: 医薬品の正しい知識と使い方. おひるま協同組合, K-mix静岡エフエム放送, 2017年1月9日(放送)
21.	川上純一: 薬の服用の際に気を付けたいこと: 医薬品の正しい知識と使い方. おひるま協同組合, K-mix静岡エフエム放送, 2017年1月16日(放送)
22.	川上純一: ジェネリック医薬品: 医薬品の正しい知識と使い方. おひるま協同組合, K-mix静岡エフエム放送, 2017年1月23日(放送)
23.	川上純一: トクホ(特定保健用食品)・サプリメント: 医薬品の正しい知識と使い方. おひるま協同組合, K-mix静岡エフエム放送, 2017年1月30日(放送)
24.	川上純一: フォーミュラリーの策定で適正使用を推進. 薬事ニュース No. 4293(2017年2月10日), p.6
25.	川上純一: 薬剤師フォーラム in Tokyo「薬剤師の明日を考える」. 薬事新報 No. 2983(2017年3月2日), p.21

## 13 その他の業績